



黒田長高様ご息女絢子様のご結婚披露宴



黒田裕大さん、絢子さん

3月14日は、円周率に因んだ「π(パイ)の日」だそうで、数学にも大いに関係のある大変お目出度い日でした。お二人が素晴らしい家庭を築かれることをお祈りいたします。おめでとうございました。

第31号
令和3年7月1日発行
発行者
一般社団法人 藤香会
事務局
092-724-0007
発行責任者
毛屋 嘉明

去る3月14日(日)、東京都千代田区紀尾井町の「ホテルニューオータニ」に於いて、黒田絢子様と鈴木裕大様の御結婚式・披露宴が執り行われました。
披露宴には藤香会から、山崎拓会長、田中理事の2名、黒田奨学会からは伊達理事長、久保田理事の2名、福岡城市民の会からは石井理事長が出席いたしました。
コロナ禍の中での披露宴のため参加者の間隔は十分に広くとられ、また参加者も大きなホールにもかかわらず100名程度に制限されました。
新郎の黒田(改姓)裕大(ゆうだい)様は、絢子さんが卒業された大学(ICU)時代からの友人で、現在は東久留米市にある学校法人「自由学園」で数学の教諭をなされています。



左から山崎本会会長、久保田黒奨学会理事、新郎、新婦、伊達黒田奨学会理事長、田中本会理事、石井福岡城市民の会理事長

総会決定事項について

福岡県は三たびの新型コロナ非常事態宣言発令中で不用不急の外出自粛が求められ、また多くの施設が閉鎖される中で、5月30日に予定していました総会を取り止めることにしました。議案内容は理事会において審議し、会員に郵送いたしました。会員からの質問事項はなく、6月14日に開催した理事会において原案通り承認されました。

令和3年度予算は総額434万円、内30万円を前年度と同様に基金に繰り入れて200万円となり、令和5年に実施する長政公4000年忌の行事に充てられる予定です。

また理事では篠原カズエ氏、原俊樹氏および高倉照矢氏の3名が退任され、新たに中村照久氏および村山由美氏の2名が選出されました。退任されたご三方には長年にわたって本会の発展のために尽力いただきました。特に篠原カズエ氏は本会の生き字引のごとく、また歯に衣を着せぬ意見を述べられて若輩の理事を叱咤された姿勢には頭が下がる思いです。

役員の職務は次のとおりです。

- | | |
|-------|----------------|
| 名誉顧問 | 黒田 長高 |
| 会長 | 山崎 拓 |
| 副会長 | 毛屋 嘉明 |
| 事務局 | 田島 満行(局長)松尾 等 |
| 事務局総務 | 西田 経敏 栗山 順子 |
| 研修 | 田中 崇和 大島 泰治 |
| 広報 | 天本 孝久 森 純子 |
| 会計 | 郡 基博 秦 紀子 |
| 理事 | 徳永 良子 浜田 泰祐 |
| | 三野原 信二 岳 康宏 |
| | 吉田 征則 中村 照久(新) |
| | 村山 由美(新) |
| 監事 | 馬頭 徹夫 田中 雅美 |

如水公・忠之公ご法要

2月12日の2代藩主忠之公の368回御忌法要および3月20日の藩祖如水公の418回御忌法要はコロナ感染防止のため取り止めて、理事のみで参詣しました。
忠之公の法要は菩提寺の東長寺本堂で理事15名、如水公の法要は黒田家墓所で理事19名の参列で執り行いました。



墓前参詣の前に清掃をする理事の皆さん

墓前参詣後に如水公墓前において参詣の理事





ZOOMを使った古文書講座の様子、奥が天本、手前は長谷川法世氏

会員クリック²⁸



本会理事
天本 孝久

福岡藩と縁もゆかりもない私が藤香会に入会したのは、筑前黒田家文書を讀む会で解読した文書を出版することになり、平成20年の博多どんたくに来福されていた長高様に序文をお願いしたのがきっかけでした。サンプルの翻刻書を持参して説明したところ、興味を持たれ、序文を書いていただきました。

古文書会としては最初の出版物で「文久三年慶賀公御滞京日記」で、その後黒田家文書の御用状、筆頭家老黒田播磨の日記など5冊を出版するに至っています。

私が古文書の興味を持ったのは、生まれ故郷の佐賀県基山町の祖父の家にあった文書に興味を持ったところに始まります。現在の鳥栖市や基山町は江戸時代は対州田代(たじろ)領で対馬から着任した代官が治めて、比較的統制が緩やかだったため新宗教が盛んでした。これについては、碩学長忠生先生の「内信心念仏考」(1999年海鳥社刊)が詳しい。

対馬藩のお寺に寺請されていました、自分たちの信仰を持ちたいと「内信仰」が広がっていました。祖父の家にも信者の一覧や仏事の時の行事の手順、唱えるお経の文章が残っていました。

無学の百姓が書いたもので、誤字・当て字・脱字が多くとても読める文書ではありません。なんとか読みたいと思っていたところ平成17年に福岡市中央市民センターで開かれる講座に参加しました。それ以来16年になります。

いろんなところから解読の依頼があります。家系図、日記、手紙、お坊さんの揮毫など、私的な文書ばかりで、現在の文書であれば公にできないものも多くあります。何か新しい発見があれば嬉しい限りです。

古文書に興味のある方のための初歩からの古文書講座を公民館や「博多町家」ふるさと館で開催していますので、覗いてみてください。

ちよっとうんちく

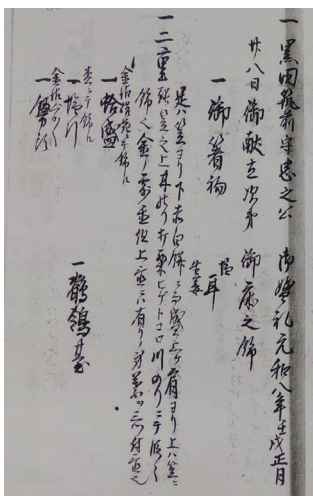
福岡藩における正式な料理は京都の四條大納言家の料理が伝わったものとみられる。

「四條家密傳書 全」(福岡県立図書館蔵)にはその料理の献立が記されている。福岡では西川と戸川の両家が料理人頭を勤めた。宝暦11年に戸川専右衛門正誠によって書かれたその書は、西川九郎左衛門正次の子善兵衛重長が集書して「一子ノ外相傳致問敷く堅く秘して正勝にも傳えず」として正勝の弟正峯に伝えられた。その後正峯の女聲である戸川久左衛門正俊に伝えられ、正俊はこの密傳書に描かれている書画を改めている。

正月、五節句、殿様の参勤のための発駕・帰城、秋月藩の藩主の来福の折々に殿様に家老や中老、用人等が相伴した。

メニューとしては、藩主や世子の婚礼時の料理、出陣、帰陣の時、武具仕立の時の料理等が羅列されている。今でも祝いの膳として昆布や鯛等が食されるが、当時も出陣は勝栗、鴨(かも) 敵の甲を取るの意)、鳴(しぎ) 敵の領地・田畑を取るの意)等が縁起物として出された。

2代藩主の忠之公の婚礼時の初日の料理メニューは9丁16ページに亘って記述されています。次の文章はその一部です。



冒頭部分

【黒田筑前守忠之公御婚礼 元和8年壬戌正月28日 御献立次第 御床之飾】

一 黒田筑前守忠之公御婚礼 元和八年壬戌正月廿八日 御献立次第 御床之飾

一 御箸物 塩

耳 生姜

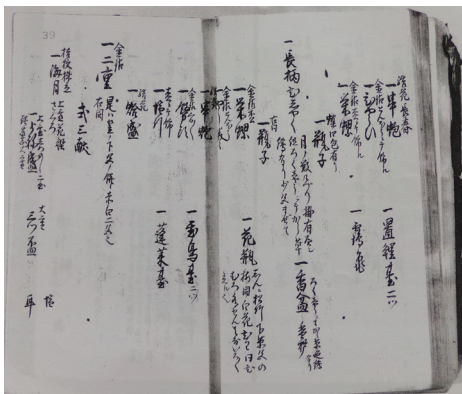
是ハ笠ヨリ下 赤白餅ニ而盛上ケ

一 二重 肩ヨリ上ハ笠二張

笠之上耳能リ打 栗ヒゲトコロ 川のりニテ

段々飾也 金ノ栗置

但上置ニハ有リノ身 葉ヲ三ツ付置也



婚礼の2献の献立(メニュー)の詳細

金銀膳花ニテ飾ル

一 蛤盛

恣ニテ飾ル

一 塩引一 鶴鶴臺

金銀ぐかく

一 饅頭

★新規入会員紹介

1. 一般会員

園田 隆一・桑野 啓子

横田 範子・中元 輝子

小林 緑・桑野 浩一

2. 賛助会員 50企業・団体

令和3年

ホームページアドレス

<http://toukoukai-kuroda.com/>

藤香会

検索

編集後記

昨年からの新型コロナの影響で、本会の諸行事や寺社参詣が中止となっています。従って今号も掲載する行事が少ないですが、こんな時だからこそ腰を据えて歴史を見つめ直すことができるのではないかと考えています。(天本記)